(3) 地名など

地名（国名や自然名を含む）や組織または団体名・会社名などは、３拍以上の独立性の強い意味のまとまりごとに区切る。２拍以下の意味のまとまりでも、独立性が強く意味の理解を助ける場合には、区切って書き表してもよい。

（例）ヤマト□コオリヤマシ（大和郡山市）
ニホン□テンジ□イインカイ（日本点字委員会）
ペンシルベニアシュー（ペンシルベニア州）
キノカワ（紀ノ川）　キタキューシューシ（北九州市）
ホッカイドーチョー（北海道庁）　エッフェルトー（エッフェル塔）
タイ□オーコク（タイ王国）　ノト□ハントー（能登半島）
ミノ□カモシ（美濃加茂市）　ムサシノ□クニ（武蔵野国）
ホッカイドー□チジ（北海道知事）　ツ□シチョー（津市長）
キタ□ホケンジョ（北保健所）　コーヤ□シタ（高野下〈駅名〉）

第３節　表記符号の用法などの学習

１　句読法の用法

墨字の句読法は、表記する側の判断に委ねられている部分があり、表記において必ずしも一定にならない場合があるが、文章の内容を正確に読み取るうえで重要な位置を占めるものとなっている。

これは点字においても同様である。点字の場合、マスあけで語句の区切り目を表すことができるが、正確な文章表現や内容の正確な読み取りのために、適切に句読符を用いる必要がある。点字の句読法は基本的に墨字と対応するが、点字の触読の特性を考慮し墨字との対応を図ることが大切である。

(1) 句点

文の終わりには句点（⠲）を続けて書き、次の文との間を二マスあける。句点の後にカギ類やカッコ類の閉じ符号がくる場合には、句点と閉じ符号との間は続ける。

（例）ウシロカラ□⠲オーイ⠲⠲ト□ヨバレテ⠲□

⠸⠮ダレダローカ⠸⠮⠸⠮ト⠀オモッタ⠸⠮⠀⠀
（後ろから「おーい。」と呼ばれて、（だれだろうか。）と思った。）

見出し語の順位を表す数字やアルファベット、または仮名などの後ろに、ピリオドが続く場合には、その後ろを一マスあけて書き表す。
（例）⠀⠀⠀⠀⠼⠁⠲⠼⠁⠀テンジノ⠀カキカタ
⠀⠀⠼⠁⠲⠼⠁⠀テンジノ⠀キゴー
⠀⠀⠁⠲⠼⠁⠀セイオン

１．点字の書き方
ａ．点字の記号
ア．清音

(2) 疑問符・感嘆符

疑問符（⠢⠦）や感嘆符（⠖⠖）は、句点と同様、文の終わりにくる場合には後ろを二マスあけ、文中にくる場合には、後ろを一マスあける。疑問符や感嘆符の後ろにカギ類やカッコ類の閉じ符号がくる場合は、これらと閉じ符号との間は続ける。

なお、点字の英語の疑問符とは形が違うので、混用しないように留意する。

（例）
⠀⠀ドーシテ⠀コー⠀ナッタノ⠢⠦⠀⠀キミワ⠀シッテ⠀イル⠢⠦
（どうしてこうなったの？　君は知っている？）
⠀⠀シマッタ⠖⠖⠀⠀オソカッタカ⠖⠖（しまった！　遅かったか。）
⠀⠀アッ⠖⠖⠀ト⠀サケンダキリダッタ⠖⠖
（あっ！と叫んだきりだった。）

(3) 読点

読点（⠢⠂）は、主語や接続語の後ろや、文の構成を明らかにして誤読を避ける場合などに用い、その後ろを一マスあける。

点字の場合、マスあけで語句の区切り目を表すことができるが、文の意味や表現したい意図を正しく伝えるには、適切な箇所に読点を付けることが大切であるので、繰り返し丁寧に指導する。

なお、墨字で、読点の意味でコンマが用いられていても、点字では常に「⠂」を用いる。

（例）

□□ハルワ□アタタカイ⠂□ヒガ□ナガイ⠂□ハナガ□サク⠂□
トリガ□ウタウ⠁（春は暖かい、日が長い、花が咲く、鳥が歌う。）
□□ワタシワ⠂□ホホエミナガラ□チカヅイテ□クル□
カノジョヲ⠂□ミテ□イタ⠁
（私は、微笑みながら近づいてくる彼女を、見ていた。）
□□ワタシワ□ホホエミナガラ⠂□チカヅイテ□クル□
カノジョヲ⠂□ミテ□イタ⠁
（私は微笑みながら、近づいてくる彼女を、見ていた。）

（4） 中点

中点（⠐）は、対等な関係で並ぶ語句の区切り目に書き、その後ろを一マスあける。

およその数や日付の略記などを表す数字の区切りや、略称を表すアルファベットの間には、中点を用いない。

また、地名などの段階の区切り、肩書きや居住地などと人名の区切り、所在地と施設名の区切りといった小さな区切りにおいても中点は用いず、一マスまたは二マスあけて書き表すことを原則とする。

（例）ナラニワ⠂□トーダイジ⠐□カスガ□タイシャ⠐□
コーフクジ⠐□ホーリュージナドガ□アル⠁
（奈良には、東大寺・春日大社・興福寺・法隆寺などがある。）
⠁⠐⠁⠁⠁（五・六十）　⠁⠁⠁⠐⠁⠁（七・五・三）
⠁⠐⠁⠐⠐□ジケン（５・15 事件）
スーツ□ケース（スーツ・ケース）
トーキョー□カンダノ□マチナミ（東京・神田の町並み）
コーチョー□□サトー□イチロー（校長・佐藤一郎）

読点と中点を同時に使い分ける場合、読点は中点よりもやや大きな区切り目に用いられる。

（例）ザイリョーワ⠂□トリニク⠐□タマネギ⠐□ピーマン⠂□
サラダ□オイル⠐□マヨネーズ⠂□シオ⠐□コショー⠐□

カガク⠀チョーミリョーデス⠼

（材料は、鶏肉・玉ねぎ・ピーマン、サラダオイル・マヨネーズ、塩・胡椒・化学調味料です。）

(5) スラッシュ（⠌）

対等関係や比、その他の区切りを表すスラッシュは、前後ろをマスあけしない。

外字符で書き表すひと続きのアルファベットの間に用いる。この場合スラッシュの後ろにも外字符の効力が継続する。

（例）⠌⠔⠔⠔⠎⠎⠎⠎⠔⠎（DOS/V）　⠌⠔⠔⠎⠎⠔⠎⠔ヒ（S/N 比）

数字の間にも用いるが、スラッシュの前に ⠌ を置く。

（例）ケツアツワ⠀⠌⠔⠔⠎⠎⠔⠎⠎⠎⠎　（血圧は 125/85）

ただし、墨字で使われる１/23（１月 23 日）のような日付の略記にはこのスラッシュ（⠌）は用いない。

２　囲み符号の用法

語句や文の全部または一部を引用・強調・指定する場合、墨字では、様々な形のカギ類で囲んだり、線や点を行の下や横に添えたり、活字の大きさや字体を変えたりしている。

点字では、カギ類や指示符類を用いるが、多用すると文の読み取り自体が困難となったり、煩雑になったりする。そのため、一般書では、強調表現をできるだけ省略するなどして、必要最小限にとどめる工夫が必要である。

(1) カギ類

会話文や、引用する文や語句の前後ろを第１カギ（⠘～⠘）で囲んで書き表す。その中にさらにカギ類が必要なときは、ふたえカギ（⠰⠘～⠘⠰）を用いる。カギ類の内側は続け、外側は分かち書きの原則に従う。第１カギと区別する必要のある時は、第２カギ（⠰⠘～⠘⠰）を用いる。また、書名は、ふたえカギで囲んで表すことが多い。

（例）センセイワ⠰⠀⠘ミンナノ⠀マエデ⠀ハナス⠀トキワ⠀

⠰⠰ツタエヨート⠀スル⠀キモチ⠰⠰ガ⠀タイセツデス⠰⠰ト⠰⠰⠀
オハナシニ⠀ナッタ。

（先生は、「みんなの前で話すときは『伝えようとする気持ち』が大切です。」と、お話しになった。）

⠰⠰オヒサシブリデス⠰⠰⠰⠰⠀⠀ナツカシイ⠀コエガ⠀
キコエテ⠀キタ⠰⠰

⠰⠰ヤア⠰⠰⠀ゲンキダッタ⠰⠰⠰⠰⠀⠀シゼンニ⠀コエガ⠀
ハズンダ。

（〈お久しぶりです。〉懐かしい声が聞こえてきた。
「やあ、元気だった？」自然に声が弾んだ。）

(2) 強調のカギ類・指示符類、指定の指示符類

文や語句の一部また全部を強調する場合は、カギ類や指示符類を用い、語句や文を指定する場合は、指示符類で囲む。カギ類や指示符類の内側は続け、外側は分かち書きの規則に従う。なお、これらを用いるときは、読みにくくならないよう配慮し使用は最小限にとどめる。

（例）⠰⠰ハムレットテキ⠰⠰⠀セイカク（“ハムレット的”性格）
カレガ⠰⠰⠀⠰⠰⠰⠰ナンドモ⠀ソノヨウーニ⠀イウノワ⠀
ナニカ⠀⠰⠰リユー⠰⠰ガ⠀アルノダロー⠰⠰⠰⠰

（彼が、何度もそのように言うのは何か理由があるのだろう。）

試験問題などで傍線部や下線部を示す場合は、検索を容易にするため、目立って安定した形の第３指示符（⠰⠰⠰～⠰⠰⠰）を使用することが多い。さらに、問題文中の指定箇所のページや行を、⠰⠰⠰⠰⠀⠰⠰⠰⠰（ｐ２　ℓ５）のように設問中に表示することも行われている。

(3) カッコ類

カッコ類は、語句や文の説明や挿入に用いる。説明の前後ろを第１カッコ（⠰⠰～⠰⠰）で囲み、第１カッコの中でさらにカッコを必要とする場合には、二重カッコ（⠰⠰⠰～⠰⠰⠰）を用いる。カッコ類の内側は続け、外側は分かち書きの規則に従うが、直前の語句の説明の場合には、開きカッコの前は原則として続ける。第１カッコと区別して他のカッコを用いるときは、第２カッコ（⠰⠰⠰～⠰⠰⠰）を用いる。

第１カッコは墨字の丸カッコと大体対応するが、第２カッコは特定のカッコと形での対応はしていない。例えば、角カッコが語句や文の説明のために用いられていれば第２カッコを使うが、強調や指定の意味のときはカギ類や指示符類を用い、形の上での対応はしないようにする。

（例）⠼⠁⠝⠝⠁⠝ネンワ⠼⠚□テンジ□セイテイ□
⠼⠁⠝⠝⠁⠝シューネン⠼⠁⠝⠝⠁⠝ネン⠼⠚メイジ□
⠼⠁⠝⠝ネン⠼⠁⠝ニ□イシカワ□クラジノ□アンガ□サイヨー□
サレタ□タメ⠼⠁⠝ニ□アタル⠼
〈2020 年は、点字制定 130 周年（1890 年〔明治 23 年〕に石川倉次の案が採用されたため）にあたる。〉

ひとり言や回想は、カッコ類を用いて書き表すことがある。

（例）ニッキヲ□カキナガラ⠼⠚□⠼アシタワ□ドンナ□コトガ□
アルカナア⠼⠚⠼ト□オモッタ⠼
（日記を書きながら、（明日はどんなことがあるかなあ。）と思った。）

(4) 点訳挿入符

点訳挿入符（⠼⠁⠼～⠼⠁⠼）は、仮名の点字で読んだだけでは分かりにくい同音異義語や難解な漢語などの直後に、点訳のうえで説明を加えたことを明確にする場合に用いられる。点訳挿入符の用法は、カッコ類と同様である。使用する際は必要最小限にし、簡潔な説明にすることで、本文の流れや理解を妨げないように留意する。

（例）オリーブ⠼⠕□コルクガシナドノ□
コーヨージュ⠼⠁⠼カタイ□ハノ□キ⠼⠁⠼ト⠼⠚□シイ⠼⠕□
ナラナドノ□コーヨージュ⠼⠁⠼ヒロイ□ハノ□キ⠼⠁⠼
（オリーブ・コルクガシなどの硬葉樹と、シイ・ナラなどの広葉樹）

(5) 補足説明の棒線

前の語句や文の補足説明を、カッコ類で囲むよりも地の文に近く扱いたい場合、前後ろを棒線（⠐⠐～⠐⠐）で囲む。棒線の内側と外側の語句とは一マスずつあける。

（例）ゴゼン□⠼⠕ジ□⠐⠐□ソノ□コロノ□⠼⠕ジト□
イエバ⠼⠚□マダ□ウスグラカッタ□⠐⠐□ワタシワ□

トビオキタ⠰⠆

（午前５時――その頃の５時と言えば、まだ薄暗かった――私は飛び起きた。）

(6) 段落挿入符

本文の要約や前文、詳細な説明やト書き、または段落単位の引用文などを本文と段落を変えて書き表す場合、段落挿入符でその前後ろを囲む。第１段落挿入符（⠤⠤□～□⠤⠤）、第２段落挿入符（⠐⠤□～□⠤⠂）どちらを使ってもよい。行頭から二マスあけて３マス目から開き符号を書き、２行目からは一マス目から書き続ける。段落挿入符類の内側は一マスずつあける。終わりが句点などの場合でも、一マスあけるだけでよい。

（例）□□⠤⠤□⠰⠆モシ□オオジシンガ□オコッタラ⠠⠠⠠⠰⠆□□
コンゲツワ□コノ□モンダイヲ□トクシュー□シマス⠰⠆□⠤⠤

（《「もし大地震が起こったら…。」今月はこの問題を特集します。》）

３　関係符号の用法

(1) つなぎ符類

ひと続きに書き表す意味のまとまりの中で、数字とそれに続くア行・ラ行の仮名との間、アルファベットと仮名の間には、第１つなぎ符（⠰⠆）をはさんで書き表す。点字では、ア行・ラ行の仮名は数字と同形、アルファベット 26 文字はすべて仮名と同形であることから、誤読を避けるためである。

（例）⠼⠁⠰⠆⠼⠁⠰⠆⠼⠁⠰⠆エンダマ（100 円玉）　　⠠⠠⠰⠆⠠⠠⠰⠆セン（Ｘ線）

(2) 波線

数量や時間・場所などの範囲を表す場合に、範囲を表す語句の間に波線（⠰⠆⠰⠆）をはさんで、続けて書き表す。

（例）⠼⠁⠰⠆⠼⠁⠰⠆⠼⠁⠰⠆⠼⠁⠰⠆⠼⠁⠰⠆⠼⠁⠰⠆⠼⠁⠰⠆（10 時～12 時）
トーキョー⠰⠆⠰⠆オオサカ（東京～大阪）

(3) 矢印類

語句や文を対照させる場合、時間の流れや変化の方向を表す場合には矢印類（⠤⠤⠐⠂ など）を用い、前後ろを一マスあける。

（例）トーキョー⠀⠉⠊ジ⠀⠉⠊ ⠒⠒ プン⠀⠒⠒⠒⠀ナガノ⠀
⠉⠊⠒⠒ジ⠀⠉⠊ ⠒ フン⠀⠒⠒⠒⠀カナザワ⠀⠉⠊ ⠒⠒ ジ⠀⠉⠊⠒フン
（東京８時 36 分→長野 10 時２分→金沢 11 時９分）

(4) 棒線

対等な関係や、感情の余韻や時間的隔たり、省略などを表す場合に、棒線（⠒⠒）を用い、語句とは一マスあける。

（例）ノレンニ⠀ウデオシ⠀⠒⠒ ⠀ヌカニ⠀クギ
（のれんに腕押し―― 糠に釘）
⠒アッ⠒ ⠀⠀シマッタ⠒ ⠀⠀⠒⠒⠒
（「あっ！　しまった。――」）

(5) 点線

点線（⠒⠒⠒）は、感情の余韻や時間的隔たり、省略などを表す場合に用いられ、語句との間は一マスあける。点線の後に句読点や区切り符号が続くときは、マスあけしない。語頭または語中の省略に点線を用いる場合には、点線の後ろはマスあけをしなくてもよい。

（例）　⠒ソレワ⠀ワカッタヨ。⠀⠀シカシ⠀⠒⠒⠒⠒⠒
（「それはわかったよ。しかし…。」）
⠒⠒⠒⠀ノヨーナ⠀カワリモノ⠒（…のような変わり者。）
⠒⠒⠒テキ⠀カンガエ（…的考え）

(6) 空欄符号

試験問題などで、語句や記号などの記入欄を示すのには空欄符号（⠉⠒⠒⠉）を用い、空欄符号の前後ろは、分かち書きの規則に従う。そのとき、空欄に付されている記号等は空欄符号の前に置き、空欄符号を続ける。また、墨字で空欄の中に記号が書かれていても、点字の空欄符号を分割して ⠉⠒⠉⠒⠒⠉ などのようにしてはならない。

（例）
⠀⠀⠉⠊⠒⠒⠀ツギノ⠀⠒⠉⠊⠒⠒⠉⠒⠒⠉⠀⠒⠒⠉⠊⠒⠒⠉⠒⠒⠉ニ⠀
アテハマル⠀テキトーナ⠀ゴヲ⠀カキナサイ⠒
⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀……（１行あけ）
⠀⠀⠉⠒ボッチャン⠒⠒ノ⠀サクシャワ⠀⠒⠉⠊⠒⠒⠉⠒⠒⠉⠒⠉⠀
⠉⠒マイヒメ⠒⠒ノ⠀サクシャワ⠀⠒⠉⠊⠒⠒⠉⠒⠒⠉デ⠀アル⠒

１．次の空欄にあてはまる適当な語を書きなさい。

『坊ちゃん』の作者は［　①　］、『舞姫』の作者は［　②　］である。

◇この例では、点字問題の指示文を読むことで空欄数を把握できるように、「次の空欄に」→「次の（１）［　　］（２）［　　］に」と変更している。（本章第６節　試験問題と解答の書き方　参照）

(7) 文中注記符

文中注記符（⠈⠈）は、欄外の注を必要とする語句につける。注に番号を付ける場合には、⠈⠈⠼⠁⠈ ⠈⠈⠼⠃⠈ のように注記符の間に数字をはさんで書き表す（アルファベットや仮名は用いない）。

欄外の注は、該当ページの下部に線を引くなどして、本文との区別が明確になるように書く。欄外注の後、ページが変われば本文に戻ることになる。ほかにも、章や節の最後か巻末に一括して記載する方法もある。

文中注記符を置く場所は、語句や文の直後を原則とするが、注記があることをいち早く知らせる必要がある場合等では、語句や文の直前に置いてもよい。

（例）

⠀⠀⠈⠈ワガハイワ⠀ネコデ⠀アル⠈⠈⠈⠈⠼⠁⠈ト

⠈⠈マイヒメ⠈⠈⠈⠈⠼⠁⠈⠈⠈⠼⠃⠈ワ⠀……

（『我輩は猫である』*1と『舞姫』*2*3は……）

(8) 星印類

特に注意を引く必要のある文や箇条の前には星印類（⠈⠈　⠈⠈ ⠈⠈）を用いる。文や箇条が本来始まる位置に星印類を書き、その後ろは一マスあけてから本文を書き始める。

（例）

⠀⠀⠈⠈⠼⠁⠈⠀ナツヤスミノ⠀デキゴトヲ⠀サクブンニ⠀

カキマショー⠈⠈

⠀⠀⠈⠈⠼⠃⠈⠀ツギノ⠀コトニ⠀キヲ⠀ツケテ⠀カコー⠈⠈

⠀⠀メアテヲ⠀ハッキリ⠀サセル⠈⠈

⠀⠀クミタテヲ⠀クフー⠀スル⠈⠈

⠀⠀ヨンダ⠀ヒトニ⠀ヨク⠀ワカルヨーニ⠀カク⠈⠈

１．夏休みのできごとを作文に書きましょう。
＊次のことに気をつけて書こう。
目当てをはっきりさせる。
組み立てを工夫する。
読んだ人によく分かるように書く。

(9) 小見出しであることを示す小見出し符類

行頭３マス目から書き始めた見出しの後ろに小見出し符類をつけ、それが小見出しであることを表す。小見出し符類の後ろは、一マスあけるか行替えして本文を書き始める。第１小見出し符（～⠤⠤）と第２小見出し符（～⠤⠄）は必要に応じて使い分けるが、２段階の小見出しがあるときは、大きい方を第１小見出し符、小さい方を第２小見出し符で書き表す。

４　伏せ字とマーク類

(1) 伏せ字類

語句の一部や全部を隠したことを表す場合、伏せ字類を用い、その前後ろは分かち書きの原則に従う。伏せ字の後ろに助詞や助動詞が続くときは、一マスあける。一語中に伏せ字を用いる場合は、前の文字と伏せ字の間に第 1 つなぎ符をはさんで続ける。伏せ字の後ろが仮名のときも第 1 つなぎ符をはさむ。

墨字と対応させて書き表す場合は、○（⠤⠴）・△（⠤⠶）・□（⠤⠾）・×（⠤⠿）の伏せ字を用い、他の形には、その他の伏せ字（⠤⠷）を用いる。

（例）⠤⠴⠤⠴⠀センセイ（○○先生）
⠤⠴⠤ヤマ⠀⠤⠿⠤コ（○山×子）　　⠤⠴⠤⠤⠴⠤⠴（横○市）
⠤⠾⠤⠾⠀マデ⠀イク⠤（□□まで行く。）

○△□×の形そのものを示しているのではないので、伏せ字ではない部分に同じ形だからといって用いることはできない。例えば、墨字では問題の正誤や選挙の信任・不信任等に○や×の記号をよく用いるが、それらに使用してはならない。その場合は、「○」や「×」を仮名で「マル」「バツ」と書く。（第６節　試験問題と解答の書き方　参照）
（例）正しいものに○、間違っているものには×を書け。

→　タダシイ⠀モノニワ⠀マル⠲⠀マチガッテ⠀イル⠀
モノニワ⠀バツヲ⠀カケ⠢

(2) 数字の伏せ字

数字の伏せ字（⠼⠿）は、連続する数字の一部に伏せ字がある場合に、数符の有効範囲の中だけで用いる。

一連の数字の最後が伏せ字のときは、後ろの文字との間に第１つなぎ符をはさみ、助詞や助動詞が続く場合には一マスあける。

（例）⠼⠚⠚⠼⠿⠼⠿⠿ネン（20××年）
ナイセン⠀⠼⠁⠚⠼⠿⠼⠿⠿バン（内線１××４番）

(3) パーセント（⠼⠴）

パーセント（％）の符号は、数字などの後ろに続けて書き表す。後ろに助詞や助動詞が続く場合は一マスあけ、ひと続きに書き表す語の場合には第１つなぎ符をはさむ。

（例）⠼⠁⠚⠚⠴ ⠼⠴⠀ダッタ（100％だった）
⠼⠚⠚⠴ ⠼⠴⠿ビキ（20％引き）

(4) アンドマーク（⠼⠯）

「and」の意味を表す符号（アンパサンド）に対応するアンドマーク（＆）は、符号の前後ろを一マスあけて書き表す。

（例）⠼⠟⠼⠯⠀⠼⠁⠀⠼⠠⠠　（Ｑ＆Ａ）

(5) ナンバーマーク（⠼⠹）

ナンバーマークは、電話のプッシュボタンや順位数を表すとき用いられている、シャープやイゲタ、ハッシュと呼ばれるマーク（＃）に対応する。ナンバーマークの後ろに助詞や助動詞が続く場合は一マスあける。ひと続きに書き表す語の場合には第１つなぎ符をはさむ。

（例）テンジニ⠀カンスル⠀トーコーニワ⠀⠼⠞⠼⠞⠼⠞⠀テンジ⠼⠞カ⠀
⠼⠞⠼⠞⠼⠞⠀⠼⠓⠼⠓⠼⠓⠼⠓⠼⠓⠼⠓⠼⠓⠼⠓ノ⠀ハッシュタグヲ⠀ツケテ⠀
クダサイ⠢

（点字に関する投稿には「＃点字」か「＃braille」のハッシュタグを付けてください。）

(6) アステリスク（⠔⠡）

アステリスク（＊）は、電話のプッシュボタンで０の左側のボタンを表すマークなどに対応する。アステリスクの後ろに助詞や助動詞が続く場合は一マスあける。ひと続きに書き表す語の場合には第１つなぎ符をはさむ。

（例）⠔⠡⠔⠡⠔ワ□ホンシャノ□タンンシュク□バンゴー

（＊11 は本社の短縮番号）

なお、墨字では、文中注記符や星印を意味するものとしてアステリスク（＊）を使うことがあるが、点字では、それらを意味する点字記号を用いる。

(7) アットマーク（⠔⠣）

アットマーク（@）は、価格の単価表示や「…で」の意味で用いられ、前後ろを一マスあけて書き表す。メールアドレスなどのアットマークには用いない。

（例）ショーヒン□⠔⠣コ□⠔⠣□⠔⠣⠔⠣⠔エン

（商品５個@200 円）

タベモノ□フェスタ□⠔⠣□マクハリ□メッセ

（食べ物フェスタ@幕張メッセ）

５　表記符号間の優先順位など

表記符号が二つ以上重なる場合、マスあけをどうするかが問題となる。例えば、句点の後ろの二マスあけと、第１カッコの閉じ符号の内側は続けるという規則のどちらを優先させるかによって、句点の後ろの第１カッコの閉じ符号との間を二マスあけるか、続けて書くかの違いが出てくる。そこで、表記符号間のマスあけ規則の優先順位を定めておく必要がある。

また、表記符号が重なって、別の表記符号と誤読されないように、何らかの処理が必要な場合がある。

このような符号間の優先順位や処理についても、機会を捉えて指導していく。

(1) 表記符号間のマスあけ規則の優先順位

表記符号が二つ以上重なる場合、次の順位に従う。その場合、上の順位

の規則が優先され、下の順位の規則は無視されることになる。

第１順位

ア　句読符（句点・疑問符・感嘆符・読点・中点）や小見出し符類・詩行符類の前は続ける。

イ　囲みの符号（カギ類・指示符類・カッコ類・点訳挿入符・段落挿入符類・外国語引用符）の内側は続ける。（段落挿入符類は、内側の一マスあけを含んで３マス符号として取り扱う。）

ウ　波線は、範囲の始めと終わりを表す数や語句との間を続ける。

エ　文中注記符は、それが指し示す語句や文との間を続ける。

第２順位

句読符の後ろは、それぞれ必要なマスあけをする（句点は二マス、疑問符と感嘆符の文末は二マス、文中は一マス、読点と中点は一マス）。

第３順位

棒線・点線・矢印類の前後ろは一マスあける。

第４順位

囲みの符号（段落挿入符類を除く）の外側は、他の記号や分かち書きの規則に従って書き表す。

(2) 読点が他の符号と誤読されないための処理

第１カギ（⠦～⠴）・ふたえカギ（⠦⠦～⠴⠴）・第１カッコ（⠶～⠶）・第２カッコ（⠶⠶～⠶⠶）・二重カッコ（⠶⠶～⠶⠶）・点訳挿入符（⠶⠶～⠶⠶）の閉じ符号の前にくる読点（⠠）は別の表記符号になってしまうので省略することを原則とする。

（例）⠴ソレデワ⠴ト□カレワ□タチアガッタ⠴

（「それでは、」と彼は立ち上がった。）

この場合、読点を省略せずに第１カギと続けて書くと、

⠴ソレデワ⠠⠴ト□カレワ□タチアガッタ⠴

となり、⠠⠴ は、ふたえカギの開き符号となってしまうので読点を省略する。

読点の後ろに、指示符類（⠶⠴～⠴⠶　⠶⠶⠴～⠴⠴⠶　⠶⠶⠴～⠴⠴⠶）の閉じ符号がくる場合、その間を一マスあけて書き表してもよいが、これらの閉じ符号から行を移してはならない。

(3) 囲みの符号が誤読されないための処理

表記符号同士が続いて他の符号と同じ形になってしまう場合には、誤読を避けるため次のような処理をする。

ア　第１カギの閉じ（⠴）と開き（⠦）、第１カッコの閉じ（⠜）と開き（⠐⠣）、第１カッコの閉じ（⠜）と点訳挿入符の開き（⠐⠣⠐⠣）、点訳挿入符の閉じ（⠐⠜⠐⠜）と第１カッコの開き（⠐⠣）などの符号間は一マスまたは二マスあける。

イ　ふたえカギ（⠰⠦～⠴⠰）の内側に第１カギ（⠦～⠴）が続く場合、第１カギの代わりに第２カギ（⠰⠦～⠴⠰）を用いるか、ふたえカギの内側を一マスあける。ただし、ふたえカギの開き符号の後ろまたは閉じ符号の前で行を移してはいけない。

ウ　第１カギ（⠦～⠴）の外側に波線（⠦⠦）が接する場合、第１カギの代わりに第２カギ（⠰⠦～⠴⠰）を用いるなどの工夫をする。

エ　指示符類（⠰⠠⠦～⠴⠠⠰　⠰⠠⠦⠦～⠦⠦⠠⠰　⠰⠦⠦～⠦⠦⠰）の内側に、第１カギ（⠦～⠴）が続く場合は、間を一マス開ける。ただし、指示符類の開き記号の後ろまたは閉じ符号の前で行を移してはいけない。

オ　点訳挿入符（⠐⠣⠐⠣～⠐⠜⠐⠜）は、第１カッコ（⠣～⠜）の内側と外側、第２カッコ（⠠⠣～⠜⠠）や二重カッコ（⠰⠣～⠜⠰）の内側には続けて用いることができない。

６　点字仮名体系における数学・理科・外国語点字記号等

点字仮名体系の中に他の体系に属する記号を書く場合には、記号体系が変わったことを示さなければならない。

(1) 数学記号

一般書の文章中に数式を書き表す必要がある場合には、点字数学記号により書き表す。（第８章第３節、『数学・情報処理点字表記解説　2019 年版』参照）

数式のはじめは、数式が文中に追い込まれているか、行替えしているかにかかわらず、数式指示符（⠰⠠）を前置し、文中では前を一マスあけて書き始める。ただし、数符で始まる数式には数式指示符は不要である。

また、数式が文中に追い込まれている場合、数式の後ろは原則として一

マスあける。

（例）

□□ワレワレノ□ジンセイワ⠼

□□⠼⠛⠊⠑⠊⠞⠛⠛⠚⠊

デ□アルト□イウ□コトガ□デキル⠼

□□ワレワレノ□ジンセイワ⠼□⠼⠛⠊⠑⠊⠞⠛⠛⠚⠊□デ

アルト□イウ□コトガ□デキル。

我々の人生は、$y=ax^3+b$　であると言うことができる。

言葉を用いた数式では、それぞれの言葉を ⠼～⠼ で囲む。

（例）□□⠼⠼エンノ□メンセキ⠼⠼

⠼⠼⠼ハンケイ⠼⠼⠼ハンケイ⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼

（円の面積＝半径×半径×3.14）

(2) 理科記号

一般書の文章中に化学式を書き表す必要がある場合には、化学式の点字記号により書き表す。（第８章第４節、『理科点字表記解説　2019 年版』参照）

化学式のはじめは、文中に追い込まれているか、行替えしているかにかかわらず、化学式の指示符（⠼）を前置する。文中では化学式の前は一マスあけ、後ろの仮名との間も一マスあける。

大文字符は、最初のアルファベットにだけ前置し、原子数を表す右下添え字の数字は、数符なしの下がり数字を用いる。

（例）⠼⠼⠼⠼⠼□ノ□ハイシュツリョーニ□リューイ□スル⠼

（CO_2の排出量に留意する。）

高等学校の理科など科学専門分野では、単位記号を単位カッコ（⠼⠼～⠼⠼）を使用して表すことがあるが、一般の文章中では単位カッコは原則として用いない。

(3)　外国語

一般書の日本語文章中に外国語の語句や文を書く場合、行替えするか、外国語引用符で囲んで書き表す。外国語引用符の外側は分かち書きの規則や表記符号の用法に従うが、外国語引用符の閉じ符号と助詞・助動詞の間は一マスあけ、カッコ類の開き符号との間は原則として一マスあけて書き表す。（第８章第５節　参照）

日本語と外国語では、墨字で同形の符号が点字では形が異なることがあるので注意する。例えば、日本語点字と英語点字では、疑問符や棒線（ダッシュ）・点線の形が異なっている。

(4)　ホームページやＥメールのアドレス

ホームページやＥメールのアドレスなどは、アドレス囲み符号（⠠⠦～⠠⠴）で囲み、一つのメールアドレスはマスあけせずにひと続きに書き表す。行移しするときは、区切りのよい箇所（ドット・スラッシュの後、アットマークの前など）で分け、２行目以降の行頭に行継続符（⠈）を置く。

（例）⠠⠦⠓⠞⠞⠏⠐⠂⠌⠌⠺⠺⠺⠲⠃⠗⠁⠊⠇⠇⠑⠲⠚⠏⠠⠴
　　　（http://www.braille.jp）
　　　⠦⠠⠑⠤⠍⠁⠊⠇⠴□⠠⠦⠅⠐⠤⠊⠎⠓⠊⠅⠁⠺⠁
　⠈⠪⠎⠊⠭⠙⠕⠞⠎⠲⠕⠗⠲⠚⠏⠠⠴
　　　（E-mail　k_ishikawa@sixdots.or.jp）

7　行替え、行移し、見出し、箇条書きなどの書き表し方

段落など、文章の内容上の必要によって改行することを「行替え」といい、一つの段落内の文が、その行に収まらないため、次の行の一マス目から書き続けることを「行移し」という。

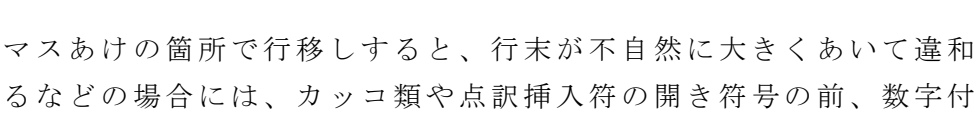
(1)　行替え

文章のはじめや新しい段落で行替えをし、行頭３マス目から書き始める。カギ類で囲んだ会話文や引用文を「と」などの助詞で受ける場合は、行を替えても原則として行頭の一マス目から書く。

(2) 行移し

行移しは、マスあけの箇所で行うことを原則とする。行末にゆとりがあっても、ひと続きに書くべき語句や符号がその行に入りきらないときには、次の行に移して書く。その際、行末に残ったマス数にかかわらず、その箇所で必要な一マスあけか二マスあけが行われたものと見なす。したがって、次の行の行頭でマスあけをしてはならない。

（例）



（昨日、行われた学校運営協議会では、次のようなことが全員で検討された。）

◇この例では、１行目の行末に「協議会では、」が書ききれないため、行移ししている。また、２行目の行末では一マスあけることができないが、行移しすることで、一マスあけられたものと見なされる。

マスあけの箇所で行移しすると、行末が不自然に大きくあいて違和感があるなどの場合には、カッコ類や点訳挿入符の開き符号の前、数字付きの文中注記符の前、波線や複合語内部のつなぎ符類の後ろ、助動詞の「ようだ・ようです」・「そうだ・そうです」（伝聞）・「ごとし」・「らしい」・「みたいだ」・「です」・「だ」の前などで行移しをすることができる。ただし、言葉の自然なリズムに留意し、読みやすさを損なうような行移しは避ける。

また、行移しにあたっては、特に次の事柄に注意する必要がある。

ア　２行にまたがらせて書き表すことはできないもの

a　ひと続きに書き表すべき数字やアルファベット（２行にまたがらせて書くと、後ろの部分が別の記号に変わるため）

b　濁音や拗音のように二マスで構成されている文字

c　ふたえカギ、指示符類のように二マス以上で構成されている表記符号類

イ　行頭に書いてはならないもの（これらの符号が、行末に書ききれない時には、その符号の直前の語句とともに次の行に移して書く。）

a　句読符（句点・疑問符・感嘆符・読点・中点）

b　囲み符号（カギ類・指示符類・カッコ類・点訳挿入符・段落挿入

符類・外国語引用符など）の閉じ符号

c　つなぎ符類・波線・小見出し符類・詩行符類・数字なしの文中注記符など

ウ　行末に書いてはならないもの（これらの符号は、行末に余裕があっても、その符号に続く語句がその行に書ききれないときには、次の行に移して書く。）

a　数符・外字符などの前置符号

b　囲みの符号（カギ類・指示符類・カッコ類・点訳挿入符・段落挿入符類・外国語引用符など）の開き符号。

(3) 見出し

見出しは、本文との区別を明らかにするために行頭を下げて書き表すが、二マスを１単位とし、大きな段階の見出しほど下げて、序列を明確にする。

見出しが１行に収まらない場合、２行目以下は、１行目の書き始めから二マス下げて書き表すが、原則としてページをまたがない。

見出しの段階を示す編・章・節・項などと見出しの語句との間は、二マスあける。また、見出しの語句の前の数字やアルファベットなどと、それに続く語句との間は二マスあけ、数字やアルファベットにピリオドやカッコ類が付してある場合は一マスあける。

（例）

□□□□□□□□ダイ⠼⠁ペン□□テンジノ□ヒョーキ
□□□□□□ダイ⠼⠃ショー□□テンジノ□キゴー
□□□□ダイ⠼⠉セツ□□テンジノ□コーセイト□ブライユノ
□□□□□□テンジ□ハイレツヒョー
□□⠼⠁⠼⠃□テンジノ□コーセイ

第１編　点字の表記

第１章　点字の記号

第１節　点字の構成とブライユの点字配列表

1.　点字の構成

なお、 見出しについては、最も大きい見出しは８マスあけ程度にすることや、編・章・節・項を用いるなど段階が明らかならば、行頭からのマ

スあけは同じものがあってもよいこと、同じ書き出し位置でも序列を明らかにするときは、⠰⠂⠀⠀　⠰⠂⠐⠀　⠐⠰⠂⠐⠀　⠰⠂⠂⠀⠀
⠂⠂⠐⠀　⠐⠰⠂⠂⠐⠀　のように書くことなどにも注意する。

(4)　小見出し

小見出しは、行頭３マス目から書き始め、その後ろに小見出し符類を付け、一マスあけて本文を書き始めるか、小見出し符類を付けた後、行替えをして本文を書き始める。第１小見出し符（⠂⠂）と第２小見出し符（⠂⠂）は、必要に応じて使い分けるが、２段階の小見出しがあるときは、大きい方を第１小見出し符、小さい方を第２小見出し符で書き表す。

（例）

⠀⠀⠀⠀コーザト⠀モヨオシ
⠀⠀ブンカ⠀セミナー⠂⠂⠀マナーニ⠀ツイテ
⠀⠀ニチジ⠂⠂⠀⠰⠐ガツ⠀⠰⠂⠂⠐ニチ⠐⠐ニチ⠐⠐⠀ゴゴ⠀
⠰⠂⠐⠐⠐⠐ジ
⠀⠀バショ⠂⠂⠀シミン⠀カイカン⠀⠰⠂⠂カイ⠀カイギシツ

【講座と催し】

文化セミナー

《マナーについて》

日時：４月15日（日）午後１～４時

場所：市民会館２階会議室

(5)　区切り線・枠線

本文中の章・節などの大きな区切り目や、本文と注などの区切り目に区切り線を用い、表や図、囲み記事を本文と区別するために枠線を用いる。

ア　区切り線

区切り線には、普通 ⠐⠐ の連続による実線 ⠐⠐⠐⠐⠐⠐⠐⠐⠐⠐ を使う。使い分けが必要なときは、区切りの大きい順に、

⠐⠐ の連続による二重線 ⠐⠐⠐⠐⠐⠐⠐⠐⠐⠐

⠐⠐ の連続による実線 ⠐⠐⠐⠐⠐⠐⠐⠐⠐⠐

⠤ の連続による点線 ⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤

などを使って表す。

区切り線は、１行あけより大きな区切りを示し、書き出し位置や長さは、行頭・行末のあけ幅を８マスずつや 10 マスずつなどにして中央に書き、目的と必要に応じて使い分ける。

また、ページの下に、本文と区別して注を書く場合には、 ⠒ を１行すべてに書いた線（全マス実線）で本文と分ける。このとき、実線を切って中央部に「チュー（注)」などと書き入れることができる。

（例）……⠒⠒⠒⠒⠒ ⠀チュー ⠀⠒⠒⠒⠒⠒……

イ　枠線

表や図、あるいは囲み記事を本文に挿入する際に用いる線で、開きと閉じがある。

実践枠　開き ⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤　　閉じ ⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤

点線枠　開き ⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤　　閉じ ⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤

実践枠や点線枠と区別する必要があるときに用いるもの

開き ⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶　　閉じ ⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶

書き出し位置と長さは、１行すべてに書くか、４マスか６マスなど行頭・行末のあけ幅を同じにして中央に書く場合などがあり、目的と必要に応じて使い分ける。

また、開きの枠線を切って、「ズ（図)」「ヒョー ⠀⠶⠤（表１)」などと書き入れることができる。

(6) 箇条書き

同じ段階の項目や語句、又は文章などを箇条書きにする場合、書き始めの位置をそろえて書き表す。

（例）

⠀⠀⠀⠀コエニ ⠀ツイテノ ⠀ハッピョー ⠀メモ

⠀⠀⠶⠶⠤⠶ ⠀ケンキューノ ⠀ドーキ

⠀⠀⠶⠶⠤⠶ ⠀カゾクノ ⠀コエノ ⠀カンサツ

⠀⠀⠶⠶⠶⠶ ⠀コエノ ⠀セイシツニ ⠀ツイテノ ⠀イロイロナ ⠀ヒョーゲン

⠀⠀⠶⠶⠶⠶ ⠀カンジョーヲ ⠀トモナッタ ⠀コエノ ⠀イロイロ

声についての発表メモ

（1）研究の動機

（2）家族の声の観察

（3）声の性質についてのいろいろな表現

（4）感情を伴った声のいろいろ

（箇条書きの番号と本文の内容とを区別できる書き方の例）

□□⠼⠁⠼⠃□□タマネギワ□クシガタニ⠼⠉□ニンジンワ□
イチョーガタニ□キル⠼⠉
□□⠼⠁⠼⠃□□ギューニクワ□ヒトクチダイノ□タベヤスイ□
オオキサニ□キル⠼⠉
□□⠼⠁⠼⠃□□⠼⠁⠼⠃□⠼⠁⠼⠃□ヲ□アブラヲ□ヒイタ□
フライパンデ□テイネイニ□イタメル⠼⠉

（１）　タマネギはくし形に、ニンジンはイチョウ形に切る。

（２）　牛肉は一口大の食べやすい大きさに切る。

（３）　（１）（２）を、油をひいたフライパンで丁寧に炒める。

◇この例では、箇条書きの番号を示す「（３）」と、本文の内容に含まれる番号「（１）（２）」とを区別できるように箇条書きの番号のあと二マスあけている。

第４節　文の種類による書き方の学習

１　作文一般

作文の題は、１行目に書く。題の書き出しは、５マス目、または７マス目からにすることが多い。なお、題が２行以上にわたる場合には、２行目以降を１行目の書き始めから、さらに二マス下げて書く。

名前は、題を書いた次の行に右寄せで書くか、行末が一マスか二マスあくようにして書く。作文以外にも行末に名前を書く機会は多く、自分の名前のマス数を数えておき、どのあたりから書けばよいか覚えておくとよい。

本文は、名前を書いた次の行の行頭３マス目から書き始める。段落の変わり目では行替えをし、３マス目から書き始める。